

1 単元名 暮らしを守る 火事から暮らしを守る

2 単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、大単元「暮らしを守る」を構成する3つの小単元のうちの一つで、学習指導要領では、第3学年及び第4学年の内容に示された

(4) 地域社会における災害及び事故の防止については、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

に基づいて設定されたものである。アの「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」については、地域社会における災害や事故から人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える手掛かりとして関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていることを調べていくとしている。イの「関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること」については、地域社会における災害や事故から人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える手掛かりとして、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを調べていくとしている。

そこで本単元では、火災から私たちを守る人たちについて調べるために、消防署への見学・調査を行う。ここでは、施設・設備をよく観察したり、そこで働く人々から聞き取り調査を行ったりして、災害防止のための日常の取組を理解するとともに、消火活動や消防団の活動などの事例を取り上げ考えさせていく。これらの学習を通して、地域の人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人の工夫や努力に焦点を当てて、自分たちの身の回りの安全を守ってくれる人がいることに気付き、自分たちの生活と関連付けて捉え、自分事として考えさせていきたい。

(2) 教材について

本単元では、「消防署で働く人々は、どのような工夫をしているのか」、「どんな思いで働いているのか」を非常事態に備えて、どのように組織的な対処を行っているのかについて理解することがねらいである。そのために、消防署がどんな場所なのかを現場に行き、働いている人がどのような気持ちで働いているのかを聞いてみないと分からないことがたくさんあると、考える。消防署への見学を通して、たくさん気付いたことを増やして行って欲しいと考える。

学習の流れとしては、火事が起きた時の状態を知り、そこから気付いたことをあげる。そこ

で感じた疑問やこれから先に調べていきたいことを考え、学習問題を作っていく。このように、子どもたちの疑問を学習に取り入れて、学習に生かしていきたい。最初は、学校の中の消防設備や、学校の周りの消防設備を調べることから学習を広げ、消防署の見学を行う。そこから、消防署の設備やそこで働く人々の工夫を知ると同時に、火事に対する通信システムがあることに気付き、様々な機関が関係していること気付く。消防署以外にも地域にある消防団の存在から、自分たちの地域を守っている人の思いや願いを知ることによって、自分たちの地域への関わり方や火事をなくすために、自分たちには何ができるのかを考え、学習のまとめとしては、火事の防止のための標語づくりをしていこうと考えている。

子どもたちの考えを深めていく手立てとしては、一つの事象から考えるのではなく、二つの事象の比較から子どもたちの意見の深まりを持たせたい。そして、学習のまとめとして、子どもたちが自分には何ができるのかを考えさせていきたい。一つ目の事象は、上述の消防署の人々の仕事内容や仕事への思い、二つ目は、自分たちの住んでいる地域にある消防団の人々の仕事内容や仕事への思いである。本校のある若葉区は千葉市の中でも一番消防団の多い地域である。本学級の半分の子どもの親も消防団に所属しており、消防団の活動を身近に感じている。そのため消防士と消防団を比較し、共通点や相違点を考えることによって、地域の安全を守っている人がいることや安全を守ろうとする気持ちに気付き、自分たちには何ができるのかを考えることにつながるのではないかと考える。さらに、自分たちの住んでいる地域にある消防団に目を向けて、実際に、火事が起きたときにどのような働きをするのか、その為に普段から訓練を積んでおり、自分たちの住んでいる地域の安全なくらしを守っていることに気付かせたい。

(3) 単元で育てたい力（人や社会にかかわる力）

指導にあたっては、消防署を見学し、設備を観察したり、そこで働いている人々の思いや願いについて聞き取り調査を行ったりすることによって、火災から地域を守ろうとしている人々の存在を知り、自分たちには何ができるのかを考えさせたい。また、消防団に所属している地域の人をゲストティチャーとして学校に招き、地域の安全を守るために実際にどのような活動をしているのか、どのような気持ちで消防団の仕事に携わっているのかなどのお話をうかがうことによって、自分たちの住んでいる地域の安全が守られていることを理解させたい。そして、自分たちは火災を減らす・なくす為に何ができるのかを考えようとする意識を育てていきたい。

3 児童の実態（対象児童 4年生 男子 3人 女子 5人）

① 社会科は好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
6人	2人	0人	0人
【主な理由】 ・地震について千葉市や地域がどのような対策をしているのか、今まで分からなかったことが分かって楽しいから。 ・見学やコンピュータを使って調べることが楽しいから。		【主な理由】	

② 見学や本、インターネットなどを使って、調べ学習をすることは好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
8人	0人	0人	0人
【主な理由】 ・実際に見学して分かることがたくさんあるから。 ・調べたりすると今まで分からなかったことが分かるようになると嬉しいから。		【主な理由】	

③ 社会科の学習で自分の意見を発表することは好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
4人	4人	0人	0人
【主な理由】 ・自分の考えを友達に知ってもらえると嬉しいから。 ・みんなが意見を聞いてくれると嬉しいから。		【主な理由】	

④ 消防署の仕事について知っていることを何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・消防署には、消防車やはしごが付いているような車がある。 ・消防隊員が働いている。 ・地図記号を知っている。 ・役割分担をしている。 ・ロープを使って高いビルにすばやく登っていく訓練をしている。 ・学区の中にある。(仲田町) 【疑問】 <ul style="list-style-type: none"> ・何分ぐらいで火事の現場に着くのか。 ・準備にどのぐらいの時間がかかるのか。

⑤ 消防団の仕事について知っていることは何ですか。

消防団に所属している家族を持つ子ども 4人 (元団員も含む) <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちが集まって少し訓練するところ。 ・消防団の訓練は、週に3回ぐらいある。 ・人を助ける訓練をしているのを見たことがある。 ・学校の近くに消防団の車庫がある。 ・夜にカンカンと鳴らしている。 【疑問】 <ul style="list-style-type: none"> ・どのぐらいの数の消防団が更科学区にはあるのか。 ・何人ぐらいの人が入っているのか。 ・消防署と消防団には、どのような違いがあるのか。 ・実際に火事が起きた時に、どのような仕事をしているのか。
--

本学級の子どもたちは、何事にも意欲的に取り組める児童が多く、活発な話し合いを行うことができ、学習への意欲が高い。社会科の学習に対しても、興味・関心が高い。上述の実

態から、児童の疑問や驚き、感動などの気持ちを持たせるような場を設定や適切な資料・教具を用いて、興味・関心をつなげていき、より深い学習につながっていくと考える。

そのため、調べ学習や見学で分かった社会的事象から人々の努力や工夫を見つけ出し、自分の身近な生活と関連付けていくことが必要となる。本單元においては、人々の安全を守るために消防士の人や消防団の人が普段目にしないところで工夫や努力をしていることに驚くであろう。さらに、消防士や消防団として働いている人の相違点や共通点を比較することで、それぞれの立場で地域を守っていることに気付かせ、児童へ驚きや感動を与えていきたい。

実態調査の結果から、実態調査のアンケートの結果から、本学級児童全員が、社会科の学習や調べ学習に対しては「好き・どちらかといえば好き」と答えており、3年生から始まった社会科の学習に興味・関心をもって意欲的に取り組んでいることがうかがえる。3年生までの学習で学校の屋上から実際に学校の周りの様子を調べたり、グループごとに学区探検をしながら、学校の周りを自分の目で見たりして、様々な発見があったことが大きな要因になっていると考えられる。また、今まで分からなかったことをパソコンで調べて、分かった喜びを体験したことも児童の心を動かしたのではないか。自分で調べたり、体験したりする学習が児童にとって、楽しい学習となっているようである。自分の意見や調べたことを発表するという学習に対しても、積極的な児童が多い。児童が社会科の学習でやってみたいことを踏まえ、児童の学習意欲をさらにかき立て、社会科学習に対して前向きな姿勢を持続させたい。

調査の結果から、消防署や消防団について何となく分かっているだけで、詳しい仕事内容については分かっていない。火事が起きないことが良いことだが、なかなか火事の現場で消防隊員の人たちがどのような働きをしているのか、24時間いつ火事が起きるか分からないので、どのような仕組みで仕事をしているのか、子供たちは疑問に感じていた。消防団については、自分の家族に消防団に所属していることもあり、少しはどんなことをしているのか知っているのではないかと予想していた。しかし、結果は違った。消防団の実態が分かっていない。このことから、自分たちの火災から守っている人の存在が地域の中や、自分たちの身近な人たちの中にいることに気付き、火災をなくす・減らすという社会事象にどのように自分たちがどのように貢献できるのかを考えられる教材である。

4 知識の構造図 別紙参照

5 単元の目標

- 地域社会において火災から地域の人々の安全を守るための諸活動の様子から学習問題を見だし、見学・調査したり、資料を活用したりして具体的に調べようとする。（社会的な事象への関心・意欲・態度）
- 火災から地域の人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えようとする。（社会的な思考・判断・表現）
- 見学・聞き取り調査をしたり、資料を活用したりして、地域社会における火災の防止について様々な取り組みについて必要な情報を集めている。（観察・資料活用の技能）
- 火災から地域において、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることや、関係

機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解する。（社会的な事象についての知識・理解）

6 観点別評価規準

○社会的事象への関心・意欲・態度

- ①地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べている。
- ②地域社会の一員として人々の安全を守るための活動に協力しようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。
- ②安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を地域の人々の生活と関連付けて考え、適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①観点に基づいて見学・聞き取り調査をしたり、資料を活用したりして、地域社会における災害及び事故の防止のための諸活動の様子について必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことを作品などにまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①関係機関は、地域の人々と協力して火災の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。
- ②人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。

7 単元の指導計画（学習内容とねらい）全12時間

過程	時間	主な学習活動と内容
つ か む	1	○火事が起きたら何が起きるのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題をたてよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・火事が起きたときのイラストや新聞記事を見て、気付いたことを発表する。 ・調べてみたいことをあげ、学習問題を作る。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">火事からわたしたちのくらしを守るためにどのような工夫があるのでしょうか。</div>
	2	○学習問題への予想をたてる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">火事が起きたときは、何が起こるのかを考え、これからの学習計画をたてよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に作った学習問題の予想をたてる。
調 べ る	3	○学校の内外の消防施設について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校や学校の周りには、どのような消防設備があるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内の消防設備の見学を行い、地図に書き込みを行う。 ・学校の周りの地図から消防設備がある場所について知る。

調	4	○消防署への見学の手配をたてる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消防署見学の計画をたてよう</div> <ul style="list-style-type: none"> 消防署で何を見るのか、消防署で働いている人々への聞き取り調査で何を聞くのかを考える。
	5・6	○消防署（セーフティちば）の見学をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消防署では、どのような人々が働き、どのような仕事をしているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 消防署の設備や消防隊員の方々の仕事について理解を深める。 消防隊員の方々の思いや願いについて聞き取り調査を行う 見学して分かったことの話し合いを行う。 見学で解決しなかった問題についても話し合う。
ん	7	○火事が起きたときには、どのように連絡が入るのかを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">火事の通報があった時に、どこにどんな連絡が入るのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 通信司令室の仕組みについて理解を深める。 関係機関との連携が必要なことを理解する。
	8	○火事が起きた時の消防団の働きについて知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">火事が起きた時に、消防団はどのような働きをするのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 地域にある消防団の実態を知る。 消防団には火事が起きた時には、どのような仕事があるのかを理解する。
	9	○消防団の活動・訓練について知る。（本時） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、地域の人々は、消防団に入っているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 消防団の役割や活動内容について考えを深める。 ゲストティチャーの話聞き、どのような気持ちで消防団として、働いているのかを理解する。
ま と め る	10	○火事の学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまでの学習を新聞にまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、学習を新聞として、まとめることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> まとめ わたしたちの暮らしを守るために、消防署の人や消防団の人が協力して、消火活動や防災活動に取り組んでいる。 </div>
い か す	11	○自分たちにできることは何か考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">火事を防ぐために、自分たちは何ができるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちに何ができるのかを考える。 火災防止のための標語づくりを行う。
	12	○自分たちの考えた標語を消防団の人に聞いてもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分たちの作った新聞や標語を見てもらい、地域の火災を防ぐために貢献しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 今までの学習してきたことや自分たちの考えた標語についての発表を行うことによって、自分たちでもできることがあるんだという自覚を深める。

8 市教研社会科研究主題のための方策

「みえる わかる…いかす」よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習

《本年度主題解明のための方策》

視点1 めざす子どもの姿、習得すべき知識・概念、身に付けさせたい力の明確化

視点2 追求意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

視点3 主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

視点4 社会認識の深まりや社会参画の資質や能力を見取る評価の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

視点2 追求意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

② 多面的な見方、考え方ができる教材の開発

火災が発生したときに働く消防署の人々だけではなく、地域の安全を守るために働いている消防団の人々の存在を知ることによって、自分たちが住んでいる地域の安全が守られているということを理解しできるような身近な教材を扱う。消防署や消防団を別々に扱うのではなく、二つの事象の比較を行うことによって、より子どもたちにとって身近な問題として捉えさせることができる。

また、同じ火災という社会的な事象から子どもたちに消防署と消防団との違いを考えさせることによって、多面的に捉え、社会的なものの見方や考え方が育まれるのではないかと考える。そこで、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎へとつながっていく。より自分事として捉えることができる。

③ 人とかかわる体験的な活動を組み入れた教材の開発

実際に人とかかわり、思いや願い、営みを感じられる教材の開発を行う。消防署への見学や聞き取り調査、地域の消防団として働いている地域の人々の話を聞くことによって、より火災への対応や防止について話を聞くことによって、自分には何ができるのかを考えることにつながる教材である。

視点3 主体的な学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

① 資料提示や効果的な発問の工夫

子どもたちは、消防隊や消防団が仕事や訓練をしている場面に出会ったことがなく、教材との出合わせ方が極めて重要である。資料提示を工夫することによって、思いがけない気づきや発見が生まれ、より主体的な学びに発展させることができる。子どもたちの気づきを生むためにも、教師の発問が大切になってくる。子どもたちの意見を単発で終わらせるのではなく、子どもたちの意見をつなげていくような教師の働きかけを工夫していく必要がある。

9 本時の指導 (9/12)

(1) 本時の目標

- 消防団の取り組みについて、調べたり、聞いたり、考えたりしたことを通して、地域の一員としてまちを守る活動はどういうものなのか考えようとする。(思・判・表)
- 消防団は地域の安全を守るために、自分たちのまちは、自分たちの手で守る思いをもって活動していることを理解することができる。(知・理)

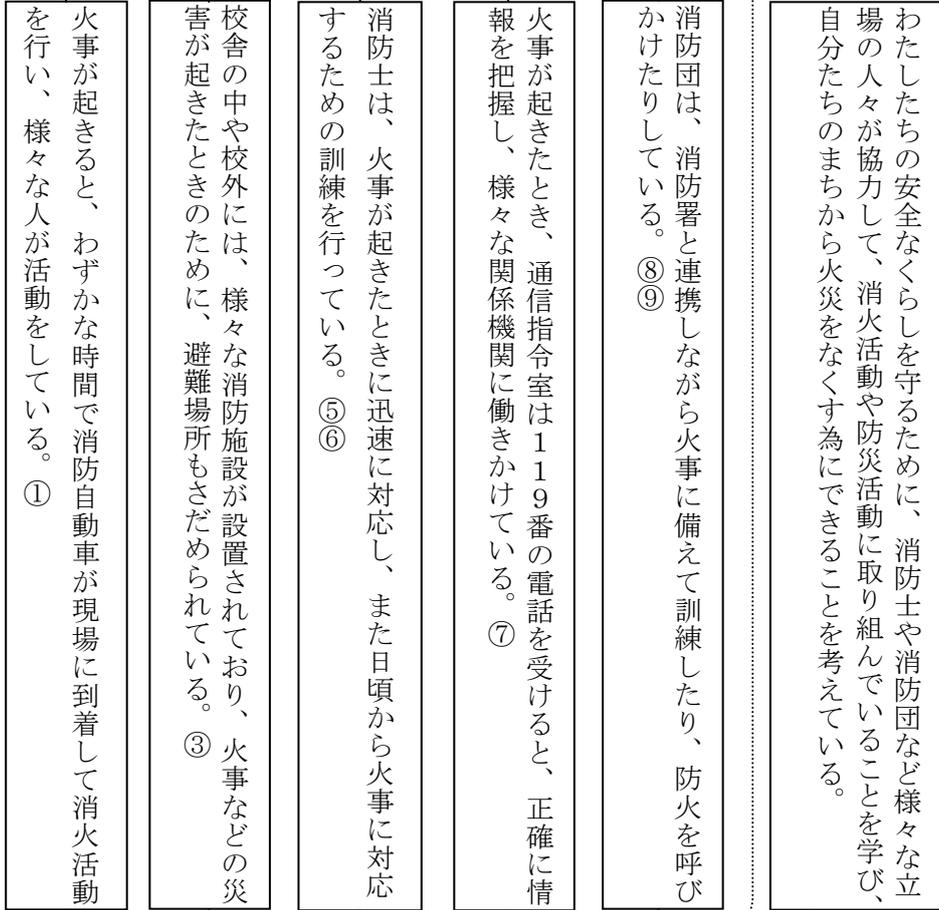
知識の構造図

中心概念

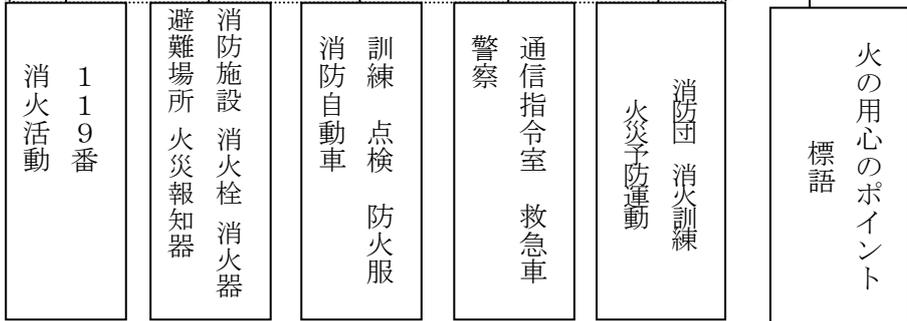
消防署をはじめとする関係機関は、相互に連携し、地域の人々に様々な働き方をしながら、火災の防止に努めるとともに、火災が起きたときの緊急に対処する体制をとっている。

まとめる

社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程

つかむ

調べる

いかす

